

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容					
0 相談支援事業所の概要		平成28年度				平成29年度					
0-1 実施状況について		<p>法人名称 社会福祉法人日本ヘレンケラー財団</p> <p>法人所在地 大阪市阿倍野区昭和町3丁目4-27</p> <p>事業所名称 わかは</p> <p>事業所所在地 大阪市阿倍野区美章園3丁目2-12-1F</p> <p>電話番号 06-6621-8001</p> <p>実施曜日 月曜日～金曜日（祝日含む）及び第2、第4土曜日</p> <p>実施時間 9:00～17:30</p> <p>同一場所で実施している他の事業 障害者支援施設、生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター生活型、短期入所</p> <p>実施法人で実施している他の事業 共同生活援助、居宅介護/重度訪問介護、福祉型障害児支援施設、救護施設、特別養護老人ホームなど</p> <p>事業所の特長</p> <p>□平成24年度の各区相談支援センター化に伴い、施設の中から美章園地域へ所在地を移したことで、より来所しやすくなった。祝日を開所することにより、相談の予約が取りやすい。</p> <p>□相談支援とともに交流・活動の場としてグループ活動を開催。</p> <p>□法人内各施設、事業所との連携した支援が可能。特に障害者支援施設アテナ平和とは隣接しており、日中活動系事業とは連携が取りやすい。なかでも地域活動支援センター「アクセス」は精神障害者への専門的な相談支援を行っており、より協働の機会が多くなった。</p>				<p>社会福祉法人日本ヘレンケラー財団</p> <p>大阪市阿倍野区昭和町3丁目4-27</p> <p>わかは</p> <p>大阪市阿倍野区美章園3丁目2-12-1F</p> <p>06-6621-8001</p> <p>月曜日～金曜日（祝日含む）及び第2土曜日（行事活動）</p> <p>9:00～17:30</p> <p>障害者支援施設、生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター生活型、短期入所</p> <p>共同生活援助、居宅介護/重度訪問介護、福祉型障害児支援施設、救護施設、特別養護老人ホームなど</p> <p>□平成24年度の各区相談支援センター化に伴い、施設の中から美章園地域へ所在地を移したことで、より来所しやすくなった。祝日を開所することにより、相談の予約が取りやすい。</p> <p>□相談支援とともに交流・活動の場としてグループ活動を開催。</p> <p>□法人内各施設、事業所との連携した支援が可能。特に障害者支援施設アテナ平和とは隣接しており、日中活動系事業とは連携が取りやすい。なかでも地域活動支援センター「アクセス」は精神障害者への専門的な相談支援を行っており、より協働の機会が多くなった。</p>					
0-2 事務室等について		平成28年度				平成29年度					
		事務室		36㎡		■ 専用		□ 共用			
		相談室		4㎡		■ 専用		□ 共用			
		その他		4㎡		■ 専用		□ 共用			
0-3 職員の状況		平成28年度				平成29年度					
		常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員			
		専任		専任		専任		専任			
		兼務		兼務		兼務		兼務			
		2人		2人		2人		1人			
0-4 職員の勤務体制		平成28年度				平成29年度					
		<p>年度途中で常勤職員1名産休入り、非常勤2名退職。</p> <p>年度途中で常勤職員1名、非常勤1名採用。</p> <p>①管理者（生活介護管理者 兼務）：常勤兼務 月・火・金曜日 9:00～17:00</p> <p>②相談員：常勤専従 月～金曜日 9:00～17:30</p> <p>③看護師：非常勤専従 火、水曜日 10:00～17:00</p> <p>④その他：非常勤専従 火、水、木、金曜日 9:00～17:30</p> <p>※休日の開所、行事、相談予約などによる変更あり。</p>				<p>年度途中で常勤職員1名産休入り、非常勤2名退職。</p> <p>年度途中で常勤職員1名、非常勤1名採用。</p> <p>①管理者（生活介護管理者 兼務）：常勤兼務 月～金曜日 9:00～17:00</p> <p>②相談員：常勤専従 月～金曜日 9:00～17:30</p> <p>③看護師：非常勤専従 月、火、木曜日 9:00～17:30</p> <p>※休日の開所、行事、相談予約などによる変更あり。</p>					
0-5 ピアカウンセリングの実施状況		平成28年度				平成29年度					
		障がい名		実施曜日		実施時間		実施曜日		実施時間	

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	平成28年度	平成29年度
1-0 理念・基本方針	<p>【法人理念】日本ヘレンケラー財団は、利用者本位の視点に立って、『人間としての尊厳』『自己決定の尊重』『社会の一員としての自覚』『生き甲斐、働き甲斐のもてる生活』を柱とし、ひとりひとりのニーズに即した支援を心がける。</p> <p>また、地域の福祉ネットワークの核としての役割を自覚し、地域福祉の実現に積極的に貢献し、守る福祉ではなく、常に利用者のニーズに応じていけるように絶えず先駆的事業に取り組んでいく。</p> <p>職員においては、キャリアアップを図り、働き甲斐のもてる職場環境の整備及び、優秀な人材の育成に努める。</p> <p>最後に、安定的な財務基盤の確立のため、適切な収益確保に努力し、計画的かつ効果的な事業運営を行う。</p> <p>【法人職員の自主管理理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①利用者の尊厳を護り、無差別平等の援助を為す。（基本理念） ②利用者和社会の福祉的向上を（常に）図る。（日常的留意） ③プロとしての責任・自覚をもつ。（未必の故意の排除） ④早期発見と早期対応。（すぐやる、すぐ働く） ⑤処遇水準の維持、改善の意欲をもつ。（常に学び、研鑽する） ⑥経験をいかす。（同じ過失は繰り返さない） ⑦専門知識、技術にも限界があることを認識する。 ⑧チームワークによる対応。職員間の平等関係を維持する。（全体機能で活動） ⑨責任系統を通す。（横の関係で処理をしない） ⑩臨機的・緊急性に即応する。（地域社会への貢献） ⑪社会資源の開発と活用を図る。（創造の精神） ⑫専門的内容や分野の私的利用の禁止。（倫理的自主規制） 	<p>【法人理念】日本ヘレンケラー財団は、利用者本位の視点に立って、『人間としての尊厳』『自己決定の尊重』『社会の一員としての自覚』『生き甲斐、働き甲斐のもてる生活』を柱とし、ひとりひとりのニーズに即した支援を心がける。</p> <p>また、地域の福祉ネットワークの核としての役割を自覚し、地域福祉の実現に積極的に貢献し、守る福祉ではなく、常に利用者のニーズに応じていけるように絶えず先駆的事業に取り組んでいく。</p> <p>職員においては、キャリアアップを図り、働き甲斐のもてる職場環境の整備及び、優秀な人材の育成に努める。</p> <p>最後に、安定的な財務基盤の確立のため、適切な収益確保に努力し、計画的かつ効果的な事業運営を行う。</p> <p>【法人職員の自主管理理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①利用者の尊厳を護り、無差別平等の援助を為す。（基本理念） ②利用者和社会の福祉的向上を（常に）図る。（日常的留意） ③プロとしての責任・自覚をもつ。（未必の故意の排除） ④早期発見と早期対応。（すぐやる、すぐ働く） ⑤処遇水準の維持、改善の意欲をもつ。（常に学び、研鑽する） ⑥経験をいかす。（同じ過失は繰り返さない） ⑦専門知識、技術にも限界があることを認識する。 ⑧チームワークによる対応。職員間の平等関係を維持する。（全体機能で活動） ⑨責任系統を通す。（横の関係で処理をしない） ⑩臨機的・緊急性に即応する。（地域社会への貢献） ⑪社会資源の開発と活用を図る。（創造の精神） ⑫専門的内容や分野の私的利用の禁止。（倫理的自主規制）

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		平成28年度		平成29年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取組みを示すものとして、委託期間全体を通じた計画が定められている。	4	4	<p>①障がい児への切れ目のない支援…子ども相談センターからの依頼や、子ども家庭センターからの相談を積極的に受け入れた。また、児童から成人に代わるタイミングで関わることができ、スムーズにサービス移行できるよう橋渡しを行った。</p> <p>②相談支援事業所を中心とした地域ネットワークづくり…相談支援部会は部会長を地域の指定相談支援事業所の相談員に任じていただくことで、相談支援のボトムアップが期待できる。また、相談支援の質の向上を目指して、自立支援協議会主催の「なんでも相談会」に参画してもらった。ここでは、計画相談に繋がる前の相談も受けるため、計画相談に繋がる前のケースを知ることができ、様々なケースを知ることができ、質の向上が期待できる。</p> <p>③緊急一時保護のできる資源について検討…大阪市に打診。貴法人での運営はどうかとの返答。</p> <p>④権利擁護研修などの開催…センターの自己啓発活動で、家族に向けて話をした。（「地域での生活に係る相談支援の役割と成年後見制度」について）</p> <p>⑤困難ケースに対する柔軟な拡大ケース会議…事例検討会は定期的に行えた。そして、困難ケースについては、都度関係機関に集まってもらい検討していくことができた。</p> <p>⑥虐待の防止、保護について…実際に虐待ケースの中核として動いたことがあった。</p> <p>⑦知的障害者の地域移行について…取り組めていない。</p>	4	<p>①障がい児への切れ目のない支援…子ども相談センターからの依頼や、子ども家庭センターからの相談を積極的に受け入れた。また、児童から成人に代わるタイミングで関わることができ、スムーズにサービス移行できるよう橋渡しを行った。</p> <p>②相談支援事業所を中心とした地域ネットワークづくり…相談支援部会は部会長を地域の指定相談支援事業所の相談員に任じていただくことで、相談支援のボトムアップが期待できる。また、相談支援の質の向上を目指して、自立支援協議会主催の「なんでも相談会」に参画してもらった。ここでは、計画相談に繋がる前の相談も受けるため、計画相談に繋がる前のケースを知ることができ、様々なケースを知ることができ、質の向上が期待できる。</p> <p>③緊急一時保護のできる資源について検討…大阪市に打診。貴法人での運営はどうかとの返答。</p> <p>④権利擁護研修などの開催…センターの自己啓発活動で、家族に向けて話をした。（「地域での生活に係る相談支援の役割と成年後見制度」について）</p> <p>⑤困難ケースに対する柔軟な拡大ケース会議…事例検討会は定期的に行えた。そして、困難ケースについては、都度関係機関に集まってもらい検討していくことができた。また、ケア会議（包括が開いているような会議）を包括に流れを聞きながら開催した。</p> <p>⑥虐待の防止、保護について…実際に通報窓口として、行政に通報を行っている。また、コアメンバー会議にも参加した。</p> <p>⑦知的障害者の地域移行について…母体施設の「地域移行会議」に参加し、情報の提供を行ったり、家族会で地域移行に関する講義を行った。（地域移行に反対するご家族が殆どであるため）</p>
			<p>①…今年度も定期的に児童福祉事業所の連絡会を開催。有意義な情報交換ができた。来年度から部会化に向かって動いていくことも提言できたため、来年度以降により充実した動きが期待できる。</p> <p>②…指定の相談支援事業所が増えてきて、活発な動きが期待できる。協議会で取り組んでいる「障がい者何でも相談会」の見直し（高齢分野との連携や待つのではなく出向いていく）も課題である。また、事業所の増加による情報共有の難しさも懸念される。</p> <p>③…潜在的にはニーズがあるように思う。障害児の受ける虐待やDV、ネグレクトは、一事業所、一施設の踏ん張り、相談機関の交渉で支えられているのではないかと感じた。</p> <p>④…昨年度に同じ。⑤…継続して取り組んでいく。</p> <p>⑥…虐待防止という観点から考えると、もっと周知が必要であると考えられる。</p> <p>⑦…来年度から所属する入所施設の「地域移行会議」に参画予定。積極的に地域移行に取り組んでいく予定である。</p>		<p>①…今年度は、児童福祉事業所の連絡会を部会化することができた（児童部会）。部会長を置き、行政や学校、相談支援事業所とのつながりを強化していくことを目標として掲げているため、点ではなく、面での支援の構築が期待できる。</p> <p>②…指定の相談支援事業所が増えてきて、活発な動きが期待できる。協議会で取り組んでいる「障がい者何でも相談会」を見直し、高齢分野と連携を行い、包括やランチの相談員と相談の窓口に座った。実際に障がいと高齢の課題が重複した相談もあった。しかし、相談件数が少ないため、アウトリーチをどのように行っていくかが課題である。</p> <p>③…ニーズがあるように思う。障害児の受ける虐待やDV、ネグレクトは、一事業所、一施設の踏ん張り（スタッフが宿泊サービスはないが、無償で事業所に泊まってもらい、スタッフも泊り込んで支援するなど）、相談機関の交渉で支えられているのではないかと感じた。</p> <p>④…母体施設で保護者向けに講義を行った。</p> <p>⑤…包括が行っている地域ケア会議を行った。今後ノウハウを蓄積して、障がい分野でも地域住民とケースについて意見を交わす機会を増やしていければと思う。</p> <p>⑥…虐待防止という観点から考えると、潜在的なケースがあると考えられるので、もっと周知が必要であると考えられる。</p> <p>⑦…母体施設の「地域移行会議」に参加。施設での地域移行の現状を直接聞くことができた。地域移行が進まない大きな要因として、家族さんが施設での生活を求める点にある。施設からの地域移行を進めていくために、家族さんに対しての啓発活動にも取り組んでいかなければならない。</p>
委託期間全体を通じた計画を踏まえて年度ごとの事業計画を策定している。	4	4	<p>①地域自立支援協議会への積極的参加と地域ネットワークの構築…相談支援部会、研修部会での取り組みは、研修会や啓発行事の開催などの成果につながっている。また、他機関・他事業所と協力する場面が増え、ネットワークづくりにも役立った。</p> <p>②丁寧な相談受付…日々の業務の中では丁寧に行えたと思う。また、ワンストップを心がけ、簡単に他事業所に振るのではなく、必要性があれば他事業所に引き継いだ。</p> <p>③地域移行、地域生活の継続を支援する…相談者同士の交流の場や、そこから得られるピアカウンセリング的な効果には取り組めた。また啓発活動も1回開催できた。</p> <p>④利用者の権利擁護に努める…成年後見人制度の利用援助や障害基礎年金の取得の支援など、日々の業務の中では意識しており、取り組めたと思う。</p>	4	<p>①地域自立支援協議会への積極的参加と地域ネットワークの構築…相談支援部会、研修WG、日中フェスタの取り組みは、他機関・他事業所と協力する場面が増え、顔の見える関係性の構築に取り組めた。</p> <p>②丁寧な相談受付…質の向上と、きちんとできているかを振り返るために、事業所内でロールプレイングの時間を設け、スタッフ同士が各自のよい点と改善点を出し合い共有した。また、相談を受ける時は、ワンストップを心がけ、簡単に他事業所に振るのではなく、必要性があれば他事業所に引き継いだ。</p> <p>③地域移行、地域生活の継続を支援する…相談者同士の交流の場や、そこから得られるピアカウンセリング的な効果には取り組めた。また啓発活動も開催できた。（おかげの登録者とその保護者、母体施設の保護者に対して。）</p> <p>④利用者の権利擁護に努める…成年後見人制度の利用援助や障害基礎年金の取得の支援など、日々の業務の中では意識しており、実際に支援し年金の取得や後見制度の利用に繋がった。</p>
			<p>①…今年度も依然運営委員の負担が大きい状態である。しかし、組織体制の再編の話は委員と少しずつ進めることができたので来年度から本格的に進めていく。</p> <p>②…今後も継続していく。</p> <p>③…今年度も依然運営委員の負担が大きい状態である。しかし、組織体制の再編の話は委員と少しずつ進めることができたので来年度から本格的に進めていく。（特に入所者の保護者に向けて）</p> <p>④…虐待通報窓口、差別解消法の相談窓口としての啓発は課題がある。</p>		<p>①…今年度は、依然運営委員の負担が大きい状態である。組織体制の再編に取り組むと、部会も相談支援部会、日中部会、児童部会となった。また、予算や高齢との連携、研修を来年度から担当性として、効率よく議論ができるように取り組んでいく予定である。</p> <p>②…定期的な勉強会や振り返りを行い、質の維持と向上を図る。</p> <p>③…今年度も依然運営委員の負担が大きい状態である。しかし、組織体制の再編の話は委員と少しずつ進めることができたので来年度から本格的に進めていく。そのために、担当スタッフへの情報提供や、家族さんへの啓発活動が課題となっている。</p> <p>④…今年度も依然運営委員の負担が大きい状態である。しかし、組織体制の再編の話は委員と少しずつ進めることができたので来年度から本格的に進めていく。（特に入所者の保護者に向けて）</p> <p>④…虐待通報窓口、差別解消法の相談窓口としての啓発は阿倍野区のセンターとしては取り組めていないため、発信をどのようにしていくか検討していかなければならない。</p> <p>→検討したこととして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケース内で差別ではないかと感じたことを一覧にして、協議会などで共有できるか？ ・ 阿倍野区内にある当事者団体に出向き、懇談会を行ってはどうか？ <p>などが事業所内であっていた。</p>

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
	事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	4	半年に一回の担当職員と施設長や副施設長との面談。職員会議の場で事業計画と評価を報告の際の意見を反映している。また、事業所内の会議の評価についても事業計画に反映している。	4	半年に一回、担当職員と施設長や副施設長との面談。1ヶ月に1回の職員会議の場で事業計画と評価を報告の際の意見を反映している。また、事業所内の会議の評価についても事業計画に反映している。
			継続して取り組んでいく。		今後も協議会でいただいた意見なども事業所内で共有し、事業計画に反映できるようにできればと思う。
1-2 適切な相談支援の実施		平成28年度		平成29年度	
1-2-① 自己決定の尊重		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取組み）
	必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	4	必要情報の提供や説明、体験については支援(事業所への同行を含め)できたと思う。	4	必要情報の提供や説明、体験については支援(事業所への同行を含め)できたと思う。
			引き続き情報収集等に努め、利用者に都度新しい情報を提供できるよう努めていく。また、自己決定に必要な意思決定支援についてもっと学びを深め、利用者支援に還元していきたい。		引き続き情報収集等に努め、利用者に都度新しい情報を提供できるよう努めていく。また、自己決定に必要な意思決定支援についてもっと学びを深め、利用者支援に還元していきたい。
1-2-② エンパワメントの重視		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取組み）
	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワメントが図られるよう努めている。	4	事業所内での会議、個別支援会議でも意識できたのではないと思う。日々の相談支援を行っていくうえで、答えを出すのはスタッフではなく、利用者であること、答えをだすために一緒に考えていく姿勢をスタッフは常に意識するように確認してきた。	4	事業所内での会議、個別支援会議でも意識できたのではないと思う。日々の相談支援を行っていくうえで、答えを出すのはスタッフではなく、利用者であること、答えをだすために一緒に考えていく姿勢をスタッフは常に意識するように確認してきた。そのために、事業所内でロールプレイを行い、スタッフ間で日々の面談等の様子を振り返った。
			引き続き研鑽に努めたい。		ロールプレイや学習会を定例化し、質の向上に努めていく。
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取組み）
	手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	3	具体的にそういった相談があれば他機関の協力を求めるなど方法を考えていく。	3	実際に手話通訳が必要なケースがあり、他機関に協力を求め実際にケースに関わってもらった。
			継続して取り組んでいく。		継続的に関わってもらえるよう連携を図っていく。
	一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	3	取り組んでいる。スタッフ間で気づき等はないか情報共有を行っている。本人の理解を得たうえで関係機関と連携し、意思疎通やコミュニケーションがスムーズに取れる方法を確認した。	3	取り組んでいる。また、主に関わっているスタッフだけでなく、スタッフ間で気づき等はないか情報共有を行っている。本人の理解を得たうえで関係機関と連携し、意思疎通やコミュニケーションがスムーズに取れる方法を確認した。
			継続して取り組んでいく。		継続して取り組んでいく。
	意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	3	第三者を介してのコミュニケーションの希望件数は少ないが、本人の希望があれば受け入れる（ただし、同席することで事業所側の不利益が生じるような場合を除く）。	3	実際に手話通訳が必要なケースがあり、他機関に協力を求め実際にケースに関わってもらった。
			継続して取り組んでいく。		継続的に関わってもらえるよう連携を図っていく。

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めることができるような支援に努めている。	3	日々の相談業務の積み重ねや、研修などを通して各スタッフが意識をして取り組めたと思う。	4	日々の相談業務の積み重ねや、研修などを通して各スタッフが意識をして取り組めたと思う。
			引き続き取り組んでいく。		事業所内での学習会定例化や職務外研修に参加、伝達研修を行う事で、事業所全体の支援の質を高めていく。
b	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	4	関わっているケースの人権侵害（虐待）が疑われた時には、すぐに通報を行ったり、実際に訪問を行ったりした。虐待認定されたケースもされないケースもあったが、人権侵害が疑われた時には、積極的に介入で来ていたのではないと思う。	4	関わっているケースの人権侵害（虐待）が疑われた時には、すぐに通報を行ったり、実際に訪問を行ったりした。虐待認定されたケースもされないケースもあったが、人権侵害が疑われた時には、積極的に介入で来ていたのではないと思う。
			昨年度は虐待通報を4件行った。昨年度に比べると増加しているが、周知が広まったの増加であったのかは定かではない。また、差別解消法が施行されてから、これに係る相談が1件もないため、こちらの周知も考えていく必要がある。		昨年度は虐待通報を2件行った。周知が広まっているのかは定かではない。また、差別解消法が施行されてから、これに係る相談が1件もないため、こちらの周知も考えていく必要がある。特に差別解消法は福祉従事者も中身をきちんと把握していない場合が多いと感じるので、事業者にも正しい理解を広め、健全に対処できるようにしていかないと大きな問題となる可能性が高いと思う。
	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	4	お互いが相談しやすい関係性づくり、雰囲気作りは日々の支援を通して行っているのではないと思う。上記の取り組みが実際の虐待ケースに対応する際、連携が取りやすかった。	4	お互いが相談しやすい関係性づくり、雰囲気作りは日々の支援を通して行っているのではないと思う。上記の取り組みもあり実際の虐待ケースに対応する際、連携が取りやすかった。
			今後も行政機関とは連絡を密にとり、適切な対応が迅速にとれるように努めていきたい。		今後も行政機関とは連絡を密にとり、適切な対応が迅速にとれるように努めていきたい。その際に、きちんと介入の仕方やアプローチの仕方を話して、公と民それぞれできることをきちんと分担して事案に当たる。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3 地域・他機関との交流・連携		平成28年度		平成29年度	
1-3-① 他の関係機関との連携		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組を提案するなど、協議会の活性化に努めている。	3	<p>昨年度に引き続き、全体のコーディネートを担った。参加している委員が話しやすい環境づくりを心がけ、提案を引き出せるように配慮した。他団体（介護支援専門員の連絡会など）への働きかけなど、協議会内外の橋渡しも行った。</p> <p>昨年度と同様運営委員への負担が大きい状態である。負担を分散できるようなシステムの構築を行っていきたい。</p>	4	<p>昨年度に引き続き、全体のコーディネートを担った。参加している委員が話しやすい環境づくりを心がけ、提案を引き出せるように配慮した。部会の立ち上げや協議会の体制の見直しを図り、より活発に効率よく協議会が運営されるように努めた。</p> <p>組織体制の再編に取り掛かり、部会も相談支援部会、日中部会、児童部会となった。また、予算や高齢との連携、研修を来年度から担当性として、効率よく議論ができるように取り組んでいく予定である。</p>
		3	<p>ケースや協議会活動を通じて協働する事業所は徐々に増えてきている。</p> <p>協働できている事業所との連携を深めていくとともに、今後とも横のつながりを広げていくよう努めていく。</p>	4	<p>ケースや協議会の活動を通じて協働する事業所は徐々に増えてきている。また、医師会とも高齢の地域ケア会議を通じて繋がる事が出来た。</p> <p>協働できている事業所との連携を深めていくとともに、今後とも横のつながりを広げていくよう努めていく。また、できたつながりを他の相談支援事業所にもつなげていき、相談支援全体のネットワークの構築や強化につなげていく働きかけが必要である。</p>
1-3-② 地域の障がい者の状況把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	3	<p>地域課題に関しては、まだまだ把握できているとは言えない状況である。しかし、地域の事業所との協働する中で積み重ねは行えていると思う。</p> <p>センターからのアウトリーチも考えていく。</p>	3	<p>地域課題に関しては、まだまだ把握できているとは言えない状況である。しかし、地域の事業所との協働する中で積み重ねは行えていると思う。（協議会での事例検討やなんでも相談会を通じて）</p> <p>今後もセンターからのアウトリーチも考えていく。</p>
		3	<p>定期的な会議とまではいかなかった。しかし、ケースを通じて、つながりは増えてきており、それぞれが抱える課題等を聞くようにしている。</p> <p>継続して行い、つながりが深くなってきたら会議等に繋がっていくのではないと思う。</p>	4	<p>定期的な会議とまではいかなかった。しかし、高齢からの地域ケア会議への参加依頼は増えてきている。また、ケースを通じて、つながりは増えてきており、それぞれが抱える課題等を聞くようにしている。</p> <p>精力的に他が主催しているケース会議に参加することで、参加の依頼が増えてきている。</p>
b	障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	3	<p>なんでも相談会や自立支援協議会主催の活動では、相談コーナーを設けるなどした。しかし、積極的なアウトリーチに取り組んでいるわけではない。</p> <p>障がい者相談支援センターが何をしてくれるのか？相談支援とは何なのか？理解や認識を広めていくことがアウトリーチにもつながっていくと思うので、啓発等に取り組んでいく。</p>	3	<p>なんでも相談会や自立支援協議会主催の活動では、相談コーナーを設けるなどした。また、アウトリーチを行っていくにあたり、包括な相談が受けられるように、包括やランチにも協力を依頼し、一緒に相談を受けた。</p> <p>上記のように包括的な相談を受けられる体制作りは行ったが、出向いての相談という事は出来なかった。今後、モデルケースを作り実際に共同で出向いての相談（出張相談）のシステム作りに取り組んでいく。</p>

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	3	具体的な周知活動、こちらからの調査活動は積極的には行えていない。時間がある時に、事業所に出向き、見学やお話は聞かせてもらうように取り組んでいるが多くの、日々の相談や研修会、講座、日々の相談ケースからのつながりなどに留まっている。	3	具体的な周知活動やこちらからの調査活動は積極的には行えていない。時間がある時に、事業所に出向き、見学やお話は聞かせてもらうように取り組んでいるが多くの、日々の相談や研修会、講座、日々の相談ケースからのつながりである。
			上記を継続していくとともに、横のつながりから新たなサービス提供事業所や専門相談機関とのつながりを構築していけるよう模索していく。		上記を継続していくとともに、横のつながりから新たなサービス提供事業所や専門相談機関とのつながりを構築していけるよう模索していく。
	b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	3	具体的な周知活動、こちらからの調査活動は行えていない。日々の相談や研修会、講座、日々の相談ケースからのつながりなどに留まっている。 ※学校教員を含めた担当者会議や進路相談などのケースは昨年度より多く開くことができた。	3
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	3	個別の相談を通して、他の分野、福祉コーディネーターとの連携には積極的に取り組めたが、それぞれの団体などの把握を目的とした調査など具体的な活動は行えていない。	3	個別の相談を通して、他の分野、福祉コーディネーターとの連携には積極的に取り組めたが、それぞれの団体などの把握を目的とした調査など具体的な活動は行えていない。
			上記を継続していくとともに、横のつながりから新たな団体とのつながりを構築していけるよう模索していく。そして、わかば発信の行事を通して積極的につながりを持っていけるように努める。また、わかば発信の行事を通して積極的につながりを持って行けるように努める。		上記を継続していくとともに、横のつながりから新たな団体とのつながりを構築していけるよう模索していく。そして、わかば発信の行事を通して積極的につながりを持っていけるように努める。また、社会福祉協議会とのつながりを強化し、ボランティア団体の把握に努める。
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	2	実施できていない。地域の公共施設や駅などは個別相談、外出の同行支援、行事の実施などで少しずつだが把握してきているが、設備面の情報までは至っていない。	2	実施できていない。地域の公共施設や駅などは個別相談、外出の同行支援、行事の実施などで少しずつだが把握してきているが、設備面の情報までは至っていない。
			わかばだけでは難しい面があるため、自立支援協議会等を活用しながら進めていけるようにする。		わかばだけでは難しい面があるため、自立支援協議会等を活用しながら進めていけるようにする。

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取組み	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
既存のサービスの活用だけではなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。	3	自立支援協議会の部会や連絡会を通じて、横のつながりの構築や大切さを話した。また、事例を共有することで、サービスの質の向上を図った。	2	自立支援協議会の事例検討の積み重ねを通じて必要な社会資源の改善や、開発に取り組むべきであるが、事例の積み重ねから必要な社会資源の検討には至らず取り組めていない。
		継続して取り組んでいく。		地域(阿倍野区)にそのような社会資源があるか、今一度見直し整理してどのように改善できるか検討しなければならない。また、開発に向けては協議会を通じて取り組んでいく。
1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つけることが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。	3	事業所へ直接依頼のある相談（本人、家族、事業所から）に対しては、積極的に対応できたと思う。	4	事業所へ直接依頼のある相談（本人、家族、事業所、行政、社協などから）に対しては、積極的に対応できたと思う。
		継続して取り組んでいく。		緊急性の高い事例もあれば、時間をかけて慎重に介入していかなければならないケースもあった。アプローチのタイミングや方法を本人から難しければ、家族や周りの関係者から聞き取り、総合的に判断する必要がある。事業所内や他機関での情報共有に取り組んでいく。
1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）
障がい者相談支援センターは、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。	4	母体施設の行事等を通しての周知活動は、例年通り行ってきた。また、わかばと地域活動支援センター「アクセス」との共同イベント内でセンターの存在を告知した。	4	母体施設の行事等を通しての周知活動は、例年通り行ってきた。また、わかばと地域活動支援センター「アクセス」との共同イベント内でセンターの存在を告知した。
		行事内でセンターの役割を周知できたわけではないので、今後も機会を設けて周知を行っていく。		センターの存在や気軽に障がい当事者やご家族さんなどの関係者の相談に乗れるという形での周知を行ったが、具体的な内容までの周知は出来ていない。（特に虐待や差別の相談について）
地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障がい者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。	4	昨年度同様アテナ平和での取組みに参加している。今年度の取組みでは、地域活動支援センター「アクセス」と共同で地域交流行事に取り組んだ。そこでは、障がいのあるなしに関係なく、誰もが同じ時間を共有できる場の提供と地域住民であるボランティアに着目し、障がい理解に取り組んだ。	4	昨年度同様アテナ平和での取組みに参加している。また昨年度開催した、地域活動支援センター「アクセス」と共同の地域交流行事に今年度も取り組んだ。そこでは、障がいのあるなしに関係なく、誰もが同じ時間を共有できる場の提供と地域住民であるボランティアに着目し、障がい理解に取り組んだ。
		地域の方が参加してくれた。また、ボランティアからも障がい特別なものではないと感じることができたなどと、理解が進んだ意見ももらったので、継続した取り組んでいきたい。		地域の方が参加してくれた。また、参加したボランティアからもっと地域に発信してほしいという意見や今回の企画の発展させたものの提案を頂いた。

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
<p>1-4 その他の取組み</p>	<p style="text-align: center;">平成28年度</p> <p>□計画相談の新規依頼を断るケースが多かったが、事業所が増えてきたおかげで、繋ぐことができるようになってきている。 □グループでの活動・行事は、定例のクリスマス会などだけでなく、調理実習など単身生活者を対象に、交流目的に比重を置いて開催できた。 □登録者、契約者のご家族向けに、当事者参加の地域生活支援について啓発活動を開催した。今回は母体施設の家族会に参加させてもらい実際G、Hのサービス管理責任者から話をしてもらいG、Hのイメージをより具体的に持っていただく取り組みを行った。</p>	<p style="text-align: center;">平成29年度</p> <p>□グループでの活動・行事は、定例のクリスマス会などだけでなく、調理実習など単身生活者を対象に、交流目的に比重を置いて開催できた。 □施設連絡会と共同で、福祉教育の一環として地域の小学校へ講義を行った(自立支援協議会の代表として参加)。今後も継続的に行っていくことが重要となる。(今後について) □指定相談支援事業所からケースについての相談がある。しかし、ケース会議への参加という事ではなく、センターの役割としてのバックアップ機能を果たしていると言いつい難いので、ケースによっては担当者会議に参加し、一緒に課題解決に向けて取り組めるようにできればと思った。</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名			阿倍野区障がい者相談支援センター							変更又は改善内容									
2 日々の相談支援業務			平成28年度							平成29年度									
2-1 継続支援対象者数																			
①利用登録者(継続支援対象者)の実人数(指定相談支援を除く)																			
障がい種別	身体障がい	視覚	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度末登録者数					
		聴覚	1			1	1	1			1	1		2					
		肢 体		1		1	1	1			1	1		1					
		内 部	3	2		5	5				5				5				
		計	1			1	1	1			1	1		1					
	難 病									1				1					
	知的障がい	29	2		31	31	1			30				30					
	精神障がい	10			10	10	1			11				11					
	障がい児	8			8	8				6			2	6					
	重複障がい	14	1		15	15	1		1	15			1	15					
	その他	1			1	1				1				1					
	合 計	67	6	0	73	73	5		5	71				71					
②指定特定相談支援を実施した実人数			身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計							
			3人	21人	11人	22人	57人	4人	30人	13人	16人	63人							
2-2 相談支援内容			平成28年度																
①延べ相談件数			福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	
障がい種別	身体障がい	視覚	利用登録者	6	1				23	30	8	2					27	37	
			それ以外	14					5	19	9	5					5	19	
		聴覚	利用登録者								0	9						1	10
			それ以外							3	3	2						1	3
		肢 体	利用登録者	43	5					136	184	92	19					110	221
	それ以外		7						36	43	30						13	43	
	内 部	利用登録者								3	3						3	3	
		それ以外	2							2							2	2	
	計	利用登録者	49	6	0	0	0	0	162	217	109	21	0	0	0	0	141	271	
	それ以外	23	0	0	0	0	0	44	67	41	5	0	0	0	0	21	67		
	難 病	利用登録者	2						4	6	1	1					5	7	
	それ以外								1	1	1						1	2	
知的障がい	利用登録者	78	25	3		4	1	901	1012	118	75			1		791	985		
それ以外	11	5						18	34	46	5					22	73		
精神障がい	利用登録者	55	7	1		1		563	627	71	22				1	398	492		
それ以外	23	6					2	95	126	19	8					32	59		
障がい児	利用登録者	19	1					58	78	107	9					174	290		
それ以外	25	4						46	75	48	1					17	66		
重複障がい	利用登録者	88	17	1				533	639	127	30			6		501	664		
それ以外	1					1		27	29	10	2					40	52		
その他	利用登録者	5	1					397	403	7	5					346	358		
それ以外	2							39	41	10	3					20	33		
合計	利用登録者	296	57	5	0	5	1	2618	2982	540	163	0	0	7	1	2356	3067		
それ以外	85	15	0	0	1	2	270	373	175	24	0	0	0	0	153	352			
総合計		381	72	5	0	6	3	2888	3355	715	187	0	0	7	1	2509	3419		
②相談の実施方法			電話相談	来所相談	訪問相談	その他	合計	電話相談	来所相談	訪問相談	その他	合計							
			2782件	201件	372件	0件	3355件	2920件	253件	246件		3419件							

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
2-3 日々の相談件数の分析	<p style="text-align: center;">平成28年度</p> <p>○専門機関（病院、こども相談センター、DV相談センター）からの相談が増加している。 ○自立支援協議会の動きを通してやり取りが増えた包括支援センターからの依頼が昨年度に比べて増加している。 ○成年後見制度の申し立て、年金申請の相談・手伝いが多く、権利擁護での動きが活発になっている。 ○委託相談で動いていた相談が計画相談で動くこととなったケースも出てきた要る。それによって福祉サービス等の相談は委託相談のケースとして挙げにくく、どうしても日頃の生活内で出てくる愚痴や不満や心配事などが委託相談では挙がってきやすい。そのため相談種別としては「その他」が多くなっている。 ○計画相談の依頼は多かったが、昨年度と違い事業所も増えてきたため、セルフプランの作成等の動きではなく、指定相談支援事業所の紹介を行うことが多かった。 →指定相談支援事業所が増えてきたためか、計画相談についての相談件数も多く感じる。</p>	<p style="text-align: center;">平成29年度</p> <p>○専門機関（病院、こども相談センター、DV相談センター）からの相談が増加している。 ○自立支援協議会の動きを通してやり取りが増えた包括支援センターからの依頼（地域ケア会議への参加）が増加している。 ○成年後見制度の申し立て、年金申請の相談・手伝いが多く、権利擁護での動きが活発になっている。 ○委託相談で動いていた相談が計画相談で動くこととなったケースも出てきた要る。それによって福祉サービス等の相談は委託相談のケースとして挙げにくく、どうしても日頃の生活内で出てくる愚痴や不満や心配事などが委託相談では挙がってきやすい。そのため相談種別としては「その他」が多くなっている。 また、訪問の件数も指定相談での関わりの方の動きが多く、委託の方への訪問が減ってしまった。 ○来所相談の増加については、引きこもりの方の支援の一環として、わかばへの来所を外出の機会としてもらうことや「家での面談は困る」と言われるケースが増えている。 ○計画相談の依頼は多かったが、昨年度と違い事業所も増えてきたため、セルフプランの作成等の動きではなく、指定相談支援事業所の紹介を行うことが多かった。 ○指定事業所からのケース相談や協議会を部会化したことでの、部会運営のやり取りを活発に行うことができた。</p>
3 区における地域課題について		
区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など	平成28年度	平成29年度
	<p>○昨年と同様60代の障がい者を高齢の親が見ているというケースが増えてきた。しかし、親はどのように動いてよいか分からず時間だけが過ぎて行っている様子が伺えた。今後高齢分野との連携が必要となる。</p> <p>○通学や通勤時のサービス利用について。少しのサービスがあればできる等方も大勢いるように感じる。</p> <p>○クレジット機能や携帯ゲームの課金が課題の人が増えている。</p> <p>○災害弱者と言われる障がい者への災害時支援機能の構築への取り組みができていない。</p>	<p>○60代の障がい者を高齢の親が見ているというケースが増えてきた。しかし、親はどのように動いてよいか分からず時間だけが過ぎて行っている様子が伺えた。そのような方は、他人の力を借りるのは嫌という方もいれば、どこに相談して良いのか分からないといった方もいると思われる。前者には他所に頼ってもいいということ、後者には区センターや包括といった窓口があることを周知していかなければならない。それには1センターだけでは不可能なので、区の保健福祉センターや包括とも共同していく必要がある。</p> <p>○通学や通勤時のサービス利用について。少しのサービスがあれば通勤や通学ができ、社会参加ができる方が大勢いる。</p> <p>○スマートフォンのクレジット機能やゲームの課金、SNSによって課題を作ってしまった人が年々件数として増えている。これは他の区でも同様と考えられるので、区ではなくもっと大きな枠組みでの取り組みが必要ではないかと思う。（支援という枠組みでは限界を感じるがあった）</p>

事業所名		阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4 自己評価を終えて		平成28年度	平成29年度
4-1 区地域自立支援協議会での報告			
	報告日	平成29年6月28日	平成30年5月23日
	出席者からの意見		
	0 相談支援事業所の概要	<input type="checkbox"/> 人数が少ない中、本当にさまざまな相談を受け、地域活動（自立支援協議会等）に参加してくれていると思う。	<input type="checkbox"/> 人数が少ない中、本当にさまざまな相談を受け、地域活動（自立支援協議会等）に参加してくれていると思う。
	1 事業運営全般	<input type="checkbox"/> 差別解消法について区センターで意識してくれているのは有り難い。この法律については、区センターだけでなく協議会としてどのような取り組みをしていくべきか話し合わなければならない。支援に携わる支援者が当事者に分かりやすく説明できるようにしておかないと、できないようなことも障がい者差別と言われかねない。あくまで支援者と一緒にとどようにすれば課題を解決できるかという事を話し合っていくことが大切であることを伝えていかなければならない。 <input type="checkbox"/> こういう相談はここにというリストみたいなのがあればいいと思う。	<input type="checkbox"/> 高齢の方は地域の方と意見を交換するが、障害はないのか？（包括には義務があるが、障がいのセンターとはいいのか？）
	2 日々の相談支援業務	<input type="checkbox"/> 相談件数が増えており、よく動いているというのが、数字からも読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 日々の支援の中で実感として感じる場所をもう少し具体的に表してほしい。	<input type="checkbox"/> 次の区センター(燦然会さん)に日々感じていたことをきちんと引き継いで、今までやってきたことが継続してもらえるようにしてほしい。
	3 区における地域課題について	<input type="checkbox"/> 区社協やハローワークとも、もっとつながっていくべきではないか？	<input type="checkbox"/> 地域ケア会議を区センターだけでなく、協議会全体として考えれば、参加事業所の選定を行ってもらう必要があるが、関係する事業所のスタッフが会議に参加することができれば、より地域の方にも障がい者の事業所が社旗資源の一つとしてあると認知してもらえるのではないかと？ →地域ケア会議を進めていくにあたって、コーディネーターを担う人が必要。コーディネートという事を考えると、相談支援専門員が役を担うことが多い。そのため、相談支援部会が窓口を担うのが良いのではないかと？

事業所名	阿倍野区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて	平成28年度	平成29年度
	<p>□今年度も地域課題に関するアプローチが弱かったように感じる。周知や地域課題の把握や、解決に向けた取り組みを行っていかなければならない。</p> <p>□良い意味でも、あるいは悪い意味でも障がい者相談支援センターが認識されてきたと感じる。 (良い意味) …今まで、障がい福祉サービスや相談に繋がっていなかったケースの相談が本人、家族、事業所からあり、潜在的ニーズの掘り起しに繋がっている。今年度は、専門機関（病院、DV相談センター、こども相談センターなど）や高齢分野からの相談が多かった。特に、高齢分野は地域課題にもあげているように、高齢の親が障がいを持つ子を見ている家庭への支援に繋がってほしいと思う。</p> <p>(悪い意味) …区センターができる範囲を超えた相談が増加している。 ※とりあえずセンターにという形で行政も丸投げしてくるなど。</p> <p>□自立支援協議会について… ・年度を追うごとに少しずつではあるが、活動が活発化しそれによって横のつながりも広がってきているように感じる。 ・研修部会による区民向けの講座を開催するなど、地域に向けた啓発活動等を定例化することができた。 ・児童分野の集まりも開催することができ、来年度から部会化に向けて動いていくことも決定した。 ・日中部会の立ち上げも決定した。組織の再編に向けて少しずつ動き出している。</p>	<p>○区センターには情報が比較的集まりやすく、つながりも作りやすい環境にあると言える。そのつながりを継続し、深めていくことは大切である。また、地域のネットワークを構築していくために、そのつながりを地域の事業所(特に相談支援事業所)に還元して行く必要があると感じた。</p> <p>○自立支援協議会について… ・協議会の運営をより円滑にするために、組織の体制の見直しを行ってきた。その中で、日中部会と児童部会の立ち上げを行った。これにより多くの事業所が協議会への参画ができ、それに伴いそれぞれの事業所が抱えているニーズや課題を吸い上げることができる。このことが、地域ニーズの把握に繋がると考えられる。</p> <p>○積極的に出向くと言うよりは、待っている姿勢になってしまっていた。地域に埋もれているケースは日々の相談から多いと感じていたが、なかなか着手できなかった。</p> <p>○協議会のコーディネートや、福祉教育を実行するにあたって施設連絡会との協働など、地域福祉の活性化に区センターとして尽力できたのではないかなと思う。</p>